留学報告書
〜留学の価値〜

マドンナ大学
外国語学部生（長期）

留学に行く前の１番の目標は自分自身を変える、ということでした。語学力の向上も目標としていましたが、私は自分に自信が持てないせいで人の前で発言することや、自分から何かに取り組むということができませんでした。常に周りに合わせて行動していたのです。そんな自分が嫌で留学を機に自分自身を変えようと決意しました。留学先に到着してからすぐに友達を作る機会がありました。自分を変えるための第一歩としてまず私は友達を作るために積極的に友達に話しかけました。そこにはブラジル、韓国、中国、ベトナム、ポーランド、イラクからと様々な国の人たちがいてはじめはとても緊張し、なんて話せばいいんだろう、とか私が話しかけたら相手は嫌かななど自分で勝手にネガティブな方向に考えて躊躇していましたが、ここで話さなかったら絶対に後悔すると思い、思い切って話しかけました。すると、簡単に友達になることができたのです。私はその時マイナスに考える前にまず行動することが大事だと学びました。また、私はアメリカ人のルームメイトがいたのですが、仲良くなりたくてはじめは私からよく挨拶やたわいのない会話をしていたのですが、段々と話さなくなってしまい気まずくなってしまいました。留学する前はルームメイトとすぐに仲良くなれると勝手に思っていましたが、現実はそんなに簡単ではなく、私の想像とはかけ離れていました。一緒の部屋に住んでいる以上、気まずいのはお互いに気持ちがよくないのである日ルームメイトに自分があなたと仲良くなりたいとカタコトな英語で伝えました。すると、ルームメイトは私の必死な英語に耳を傾けて理解してくれ、２人で笑いながらたくさん色々な話を夜遅くまでしました。私はその時の嬉しさを今でも覚えています。自分の思っていることを相手に素直に伝えることの大切さを知りました。授業の面では、初めて受けたときに衝撃を受けました。なぜなら、日本では私も含め間違いを恐れることや恥ずかしさから授業中にクラスメイトの前で自分から発言をするというのはまずなかったのにも関わらず、留学先のクラスメイトたちは先生に当てられなくても自分たちから積極的に発言をしていたからです。私は今まで自分に自信を持てず、人前で話すことが苦手で間違えることを恐れていつも失敗から逃げていました。ですが、クラスメイトたちの間違いを恐れずに挙手や発言をする姿勢に私は圧倒され、「間違えることはダメ」という自分の中の概念がなくなりました。それから私は授業で自分の意見や問題の答えなどを自分から発言できるようになりました。また、日本では１、２回程しかやったことのない大嫌いだったプレゼンテーションもクラスのみんなの前で合計 10 回程、スピーキングやアメリカンカルチャ―、リーディングの授業で行ったのですが、最初は全く慣れることができず緊張しすぎて手と声が震え、話す内容も途中で忘れてしまい、今でも思い出すのが嫌なくらい最悪なプレゼンテーションでしたが、何回もやっていくうちに慣れていき、自分に自信を持ち余裕をもってプレゼンテーションができるようになりました。パワーポイントもただの文字だけだったのが自分らしく表現できるようになっていました。他にもクラスメイトのプレゼンテーションを見てプレゼンテーションをしているときのジェスチャーやパワーポイントの作り方、話し方などたくさん学べることがあり、とてもためになりました。日本ではあまりプレゼンテーションを高校や大学で行っていないのに対し、私のブラジルの友達は高校の時からやっていたので、私たちよりもはるかに上手でした。こういった留学をして他の国から来たクラスメイトたちと授業を受けることによってみんなから習うことがたくさんあり、留学したからこそ学べることがあるということに気づきました。学校生活の授業以外の面では、留学する前から何か部活動に入りたいと思っていたのですが、あまり自分が入りたいと思うものがなくほとんど諦めていました。ですが留学が終わりに近づいてきたある日、学校の廊下を歩いているとチアリ

ーディング部の部員募集の紙が貼られているのを見つけました。私はその時これだ！と思いました。少しでもいいから何か新しいことに挑戦してみたかったのです。そしてどうやってチアリーディング部に入部するのか調べたのですが、わかりませんでした。すると、私の部屋の近くの部屋のドアに学校でも貼られてあったチアリーディング部の部員募集の紙があったのです。その部屋に住んでいる子がチアリーディング部のメンバーだと分かったので、私はその子に聞くしかありませんでした。知らない人のドアをノックしても良いのだろうかという疑問はありましたが、恐る恐るドアをノックし、その子にチアリーディング部に入りたいということを伝えると快く受け入れてくれました。さらにコーチに私が入部したいということを電話で伝えてくれました。その場に他のチアリ―ディング部のメンバーもいたですが、みんな私のことを歓迎してくれ、とても嬉しかったのを覚えています。私はその時、今までの留学生活で学んできたネガティブな方向に考える前に行動するなどのことが生かされ、今回行動にうつすことができたと思い自分の成長を実感することができました。また、自分のやりたいと思ったことは後悔しないためにまず行動してみること大事だと思いました。今でも、あの時ドアをノックしといてよかったなと思うことがあります。それから１週間に１回、練習に参加し、チアリーディング未経験だった私でもメンバーたちが親切に教えてくれてみんなと同じようにパフォーマンスができるようになりました。練習の中で未経験とか新入部員だからとかは関係なくためらわずに自分のやりたいポジションややりたいことは自分から言わなければ、コーチから指示がくるまで待っていても無駄だと思い、自ら声を発しながら練習に励んでいました。コロナウイルスのせいで約２ヵ月間、留学が早まってしまいましたがとても価値のあるものだったと思います。自分自身を変えるという留学前の目標を達成することができ、また留学しなければわからなかったスラングや英語表現、他の国の文化、そして他の国の友達ともたくさん思い出をつくることができた充実した留学生活でした。もちろん差別を受けたり犯罪にあったり時には友達とうまく英語でコミュニケーションができなかったりと辛いこともありましたが、全ての経験がこれから生きていく上で生かされていくと思います。